

2019年9月24日

各位

株式会社スプリックス

経済産業省『「未来の教室」実証事業』にスプリックスが二度目の採択

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）は、経済産業省『「未来の教室」実証事業』において、昨年度に引き続き、今年度も実証事業者として採択されましたことをお知らせいたします。スプリックスは本事業において、自立学習 RED の個別最適化学習プログラムである「e フォレスタ」および、生徒自らがプランを策定する「個別学習計画」システムを学校へ導入し、複数教科の授業にて試行することで「到達度主義」の実現に向けたエビデンスを収集いたします。

1. 『「未来の教室」実証事業』について

「第4次産業革命」「人生100年時代」「グローバル化」が進む中、世界は「課題解決・変革型人材（CHANGE-Maker）」の輩出に向けた能力開発競争の時代を迎え、各国で教育の革新的な能力開発技法（EdTech）を活用した「学びの革命」が進んでいます。こうした中、経済産業省は、日本経済・地域経済・中小企業を動かす人材を育む「人づくり革命」を進めるべく、新たな学びを可能にする EdTech の開発・実証を進めています。本年6月には『「未来の教室」と EdTech 研究会』の第2次提言として、EdTech 等を活用した学びの自立化・個別最適化、効率化された学びと文理融合の知識を総動員した学びの循環を創出、新しい学びの環境整備、の3つを柱とする「未来の教室」ビジョンが公表されました。

ご参考：経済産業省『「未来の教室」と EdTech 研究会』第2次提言

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/mirai_kyoshitsu/pdf/20190625_report.pdf

2. スプリックスの取り組み**（1）前年度の成果**

2018年度『「未来の教室」実証事業』においては、自立学習 RED で活用する個別最適化学習プログラム「e フォレスタ」の公教育への導入に向け、10名の学校の先生からご協力を得、ワークショップ等を通じて、以下を実証いたしました。

- ・「e フォレスタ」は、公教育の現場においても展開が可能であること
- ・「e フォレスタ」の活用により、学校における教科学習の時間を大きく圧縮することが可能であること
- ・これにより、教科横断的な学習や探究・プロジェクト型学習、そして創造力・思考力を育む STEAM 学習プログラム等の新たな学びを導入するための時間創出が実現できること

(2) 今年度の展開

2019年度『「未来の教室」実証事業』においては、「テーマI. 学校教育での『個別最適化・到達度主義の学び』を可能にする教育サービスの実証」へ採択されました。前年度同様、「e フォレスト」を活用した上で、「教科横断型」×「到達度主義」授業の実現を目指し、現行の「標準授業時数」再考に向けた課題の明確化、および再考に必要な定量データ/エビデンスの収集、を目的に実証を推進いたします。具体的な実証項目は次の通りです。

① 「e フォレスト」を活用した授業を実施

：既に数学ではトライアル済。それ以外の教科でも導入

② 「個別学習計画」システムの開発・導入

：個々の到達度を踏まえ生徒自ら学習計画を策定できる機能を追加開発・導入

③ 「教科横断型」×「到達度主義」授業の試行

：各生徒がその日/週に学ぶ教科・単元を計画しながら進める授業を実践

④ 定量データの抽出

：再考議論の端緒とすべく、生徒/教科/単元ごとに要した時数と「標準授業時数」を比較
なお、授業の試行に際しては学校の特色に依存しないかたちで全国横展開が可能なモデルを構築すべく、地域に偏りのない以下5校に協力をいただきます。

- ・赤坂中学校、青山中学校（以上、港区教育委員会）
- ・川口中学校、北辰中学校（以上、長岡市教育委員会）
- ・宮城県古川黎明中学校

前年度の実証により得られた先生方からの好意的なフィードバックを背景に、今年度の実証においてはより具体的かつ現実的な展開を目指し、さらには将来的な公教育と民間教育の連携を視野に実証事業を進めて参ります。

本件に関する問い合わせ先

株式会社スプリックス

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-11-1 メトロポリタンプラザビル 12F

TEL : 03-5927-1681 eMail : info@sprix.jp